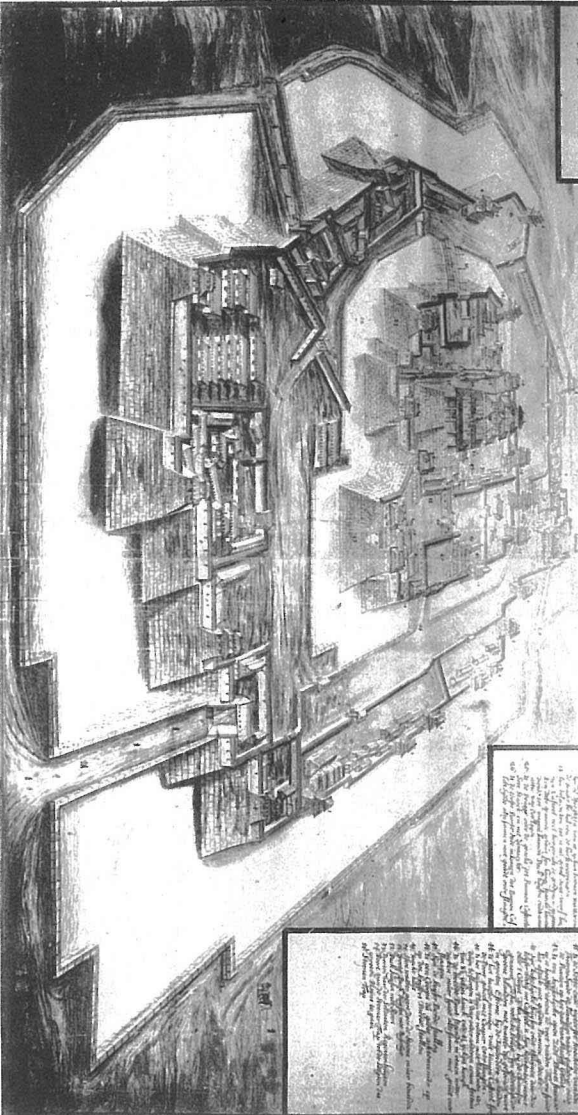


大阪城油繪寫真

本圖は和蘭海牙なる國立古文書館に藏せらる。去大正十一年八月、余田村公使之同館を訪ひし時、其館長室に掲けられたるを具、仔細に凝視せるに、年代的知すべからざるも、元和元年大阪城の野森埋没後のものにして、頗る古色を帯び、而かも構圖記註並に詳密を極む。依りて副館長曰く、H. J. 氏に請うて撮影せるもの即ち是なり。元和元年、和蘭商人 G. J. 氏より來りて大阪に遊び、戦後荒野の狀を呈せるを目睹して、平戸の僚友に贈れる書狀亦同館に藏せらる。文中秀頼の居城を圍める二重の城壁悉く破壊せられて、今は僅に一重を存せるに過ぎざること記せり。本圖は蓋し外人の手に成れる大阪城圍の白眉ならん。【三浦】



Citadel of Genoa

The Citadel of Genoa is situated on the summit of a steep hill, and is one of the most extensive and well fortified in Europe. It is surrounded by a double wall, the inner wall being of masonry, and the outer of brick. The Citadel is divided into several quarters, and contains a great number of churches, and public buildings. The Citadel is the seat of the Government, and is the residence of the Doge, and the Senate. The Citadel is the strongest part of the City, and is the key to the Harbour. The Citadel is the most important part of the City, and is the most difficult to attack. The Citadel is the most important part of the City, and is the most difficult to attack.

The Citadel of Genoa is situated on the summit of a steep hill, and is one of the most extensive and well fortified in Europe. It is surrounded by a double wall, the inner wall being of masonry, and the outer of brick. The Citadel is divided into several quarters, and contains a great number of churches, and public buildings. The Citadel is the seat of the Government, and is the residence of the Doge, and the Senate. The Citadel is the strongest part of the City, and is the key to the Harbour. The Citadel is the most important part of the City, and is the most difficult to attack.

The Citadel of Genoa is situated on the summit of a steep hill, and is one of the most extensive and well fortified in Europe. It is surrounded by a double wall, the inner wall being of masonry, and the outer of brick. The Citadel is divided into several quarters, and contains a great number of churches, and public buildings. The Citadel is the seat of the Government, and is the residence of the Doge, and the Senate. The Citadel is the strongest part of the City, and is the key to the Harbour. The Citadel is the most important part of the City, and is the most difficult to attack.

山陽と最も親しく交り、旅行などするに費用を要する時は何時も周平に依頼したさうである。或時山陽は周平に此度は安書きをするからといつて周旋を依頼した。所が周平は困り果て菓子折を携へて山陽の家に至り「先生の書は自分の知人には残りなく紹介したから周旋の餘地がない」と断つたこの話がある。又或時は周旋した人々に「此度は

御蔭で潤筆料が多分にあつたから絹地を持ち來れ御禮に書かん」と云つたが、絹地に金二分を要するので誰も依頼するものがなかつたこの話もある。されば彦根には山陽の書畫が頗る多く、又手紙の如きは殊の外多數に傳つて居たが、今は大半散佚して仕舞つた。(大正一三、五、三二)

歐米の古文書館 (上)

文學博士 三浦 周行

一 アルカイヅの本質

歐米諸國に於て史學の研究上に利用されて多大の寄與をなしたある諸機關の一つとしてアルカイヅ (archive) がある。此アルカイヅは我國に於

て未だ其設けがなく、稀れにこれに類似するものがあつても、少數の關係者に獨占されて居るのは遺憾である。といつて、是迄とても一部の史家からは其設立の希望を發表されたこともあるが、私

が先きにも歐米諸國に赴いて親しく視察した結果

は我國では折角彼れに學ばうとする所謂アルカイヴなるものゝ本質が未だ充分に理解されて居ないといふことに思ひ當つた。

我國でいふ古文書館は元來英語のアルカイヴの譯語であるが、佛語のアルシーズ (archives) 獨語のアルヒーフ (archiv) 蘭語のアーチーフ (archief) 以語のアルギヰオ (archivio) 杯何れも其語源は一つであつて、希臘語の *arkheion* が、羅甸語の *archium* や *arcivum* を經て、更に是等諸國語になつたのである。最初は長官の官舎を意味したものが、轉じてそこに藏せらるゝ公文書の蒐集を意味するやうになり、裁判所其他の各官衙から都市大學、寺院等に至る迄、逐年増加した文書の蒐集をアルカイヴと稱するに至つた。只一般にそれが最早不用となつて後日の參考の爲めに別置さるゝものに限られ、現在使用されつゝあるものはこれを除外するに一致して居る。而してこれを保管す

る人をアルカイヴスト (archivist) としよ。

さればアルカイヴは古文書の蒐集に相違はないけれども、其本質上公文書乃至半公文書 (准公文書ともいへばいへる) に屬するものである。勿論中には私人の書狀もないではないが、それとて皆其古文書を出した官公署に關係を有たないものはなかつた。英吉利現代の古文書學者 Johnson 氏はアルカイヴに向つて次の如き定義を下して居る。

Archives consist of one or more groups of documents no longer in current use, each group of which has accrued in the custody of an individual or a department in the ordinary course of business, and forms an organic whole, reflecting the organisation and history of the office which produced it. The subsequent transfer of such custody does not affect the definition.

私はこれを以て最も穩當なる定義であると信ずる現に歐米諸國に於ては到る處の官公署及びこれに準すべきところにアルカイヅ又はこれに相當するものがある。試みに此種の古文書の保存及び研究に一頭地を抽いて居る佛蘭西に例を取るならば、パリには先づ國立の古文書館たる Archives Nationales があるが、それ以外にも外務省、殖民省、陸軍省、海軍省、司法省、元老院、衆議院、警視廳、セーヌ縣及びパリ市、公證人役場、オペラ・テアトル、パリ大學杯それ々にアルシーヅがあつて、毎日一定の時間に開館して何人にも閱覽を許すものもあれば、又一定の手續を経て許可を受けた人丈に閱覽させるものもある。

日本に於ては斯ういふ意味に於てのアルカイヅは、過去に於ても、現在に於ても、殆ど一つもないといつてよい。勿論國立のアルカイヅに相當するものも現存せぬ。嘗にアルカイヅ其者がないの

みならず、其思想がないともいへる。或は史料編纂掛が多數の古文書を蒐集しつゝあるを以てアルカイヅに相當し若しくは類似したものと思ふ人もあるらしいが、同掛は史料及び古文書を編纂出版する材料として、他の記録類と共に古文書をも蒐集するのであつて、其古文書は同掛で出來たものでなく、殆ど全部原本からの複寫であつて、原本はそれら其所有者に藏されて居るのであるからアルカイヅとはもとより似ても似附かぬものである。アルカイヅの古文書の蒐集は或る限られた範圍に行はるものであつて、決して一般的のものではない。それが歴史の材料とならうとも、乃至政治、經濟、法律、軍事、文學、言論、美術、音樂等のあらゆる研究に資せられやうとも、アルカイヅ其者の豫期せないところである。是等のアルカイヅは一般に公開されて居るから、其中には一般觀覽者の爲めに所藏品の一部を陳列した Museum

(Musie) が附屬されて居て、英吉利ならば Nelson だとか Wellington だとか、佛蘭西ならば Robespierre だとか Voltaire だとかいつたやうな歴史上知名の人士の筆蹟杯もそこらに飾られては居るものゝ、アルカイヅとしては、必ずしも求めてこれを得た譯でもなく、自然に集つた書類の中から觀覽者の注意を惹く爲めに選り出されたといふ丈に過ぎないから、これを以て歴史博物館と見るは勿論當つて居ない。アルカイヅを歴史上の參考となるべき一般の古文書を蒐集した古文書館と看做すは確に其本質を辨へぬものと謂ふべきであらう。

二 アルカイヅの成立

私は今こゝで少しく歐洲に於けるアルカイヅの成立について説かねばならぬ。

歐洲に於て古文書が多少其學術的に研究さるゝやうになつて來たのは十七世紀以後の事で、其動

機は主として當時の社會に勢力のあつた寺院の領地争より延いて其證據たるべき古文書の眞贋を鑑定すること、及び高僧傳の編纂に當つて、同じく其史料たるべき古文書の眞偽の鑑定を必要としたことであつた。特に佛蘭西のベネデクト派の僧侶 Mabillon が同派の高僧傳の編纂から、各所藏者の死藏した古文書閱覽の頗る困難であつた當時としては多數の古文書を取扱つた研究の結晶として教書論 *De re diplomatica* の名著を出したことは、期せずして古文書の學術的研究の曉鐘となり、歐洲各國に於ける古文書研究の機運を誘發し、獨逸に於ては其訴訟事件に於ける價值を認めて早くも大學に於ける法學の補助學科に採用されたが、佛蘭西に於ても同一の傾向のあつた外ベネデクト派の僧侶は Mabillon の學理を應用して文學、神學、法學に關する浩瀚なる文書を出版し、パリにある *Saint-Germain des Pres* の僧院は學問の淵藪た

ると同時に、古書學及び古文書學パレオグラフィックに進む學生の養成所となつた。

然るに佛蘭西の大革命と共に寺院杯の所領が沒收され、其古文書も國家や都市に移管されて、最早古文書を證據として訴訟を提起することも昔の夢となつたから、それらは Archives Nationales を始め各種のアルシーヴに保存され展覽されて、古文書學は法學の補助學科たる地位から一步を進めて獨立の一學科たるに至り、パリには下に説く如き古文書専門の學校 Ecole des Chartes へ設立されて、各方面の歴史の根本的研究上古文書の應用の最も重要なことの周知さるゝと同時に、又其頗る容易なるに至つたのは十八世紀の末から十九世紀にかけて歐洲に於ける史學界の一大進歩と謂はなければならぬ。

佛蘭西の國立古文書館たる Archives Nationales の創立されたのは千七百九十五年即ち佛蘭西革命

曆の共和政治第三年に當つて居る。古文書の蒐藏最も豊富で、約六十萬通以上に達すといはれる。第一門は古代で千七百八十九年以前の古文書を收め第二門は近代でそれ以來のものを收める。中央に於ける官府の古文書は、畢竟はこゝに移さるべきである。現に殖民省、海軍省等に於ても千七百八十九年以前の文書は何れもこゝに移されて、このアルシーヴにはそれ以後のものしかなく、又元老院や衆議院の文書も革命時代のものとは皆同所に移されて居る。

英吉利に於てはアルカイヴといふ代りに Public Record Office との名稱が用ゐられ、ロンドンにもダブリンにもあるが、ロンドンにあるのは、中央政府の各官府に於て逐年増加せる文書を中心として地方官憲のそれに及び、何れも其堙滅を避けて將來の參考に資する爲めに千八百三十八年制定の Public Record Office Act に依つてこゝに保管す

ることゝなつたのである。從來とても各行政、司法の官府にはそれ〴〵其文書があり保管者もあつたのであるが、此法令の發布された後は是迄高等法院に於ける文書の名義上の保管者であつた大審院判事 *Master of the Rolls* が一切の司法上の文書の保管者となり、同時に一切の行政上の文書をも其保護及び管理の下に收め、それが千八百五十二年制定の *Order in Council* に依つて實行されたのである。而して一般の官府文書保存所としての事業は千八百五十一年から開始されて、是迄 *Tower & State Paper Office* と *Chapter House ウェスト・ミンスター、アビーの Chamber of the Rolls* や *Rolls Chapel* 其他多くの保存所にあつたものは皆こゝで保存されることゝなつた。

其他の各國の國立古文書館の成立及び其制度等は何れも大同小異であるから、こゝにはこれを省略する。

三 マヌスクリプト、デパートメント

是等のアルカイヴは何れも自國を始め關係諸國の歴史研究に取つて有力なる材料を提供するものではあるが、さればといつてアルカイヴの史料丈では決して充分といはれぬ。何とならばアルカイヴの文書は公邊のそれに偏して居るからである。官報ばかりで歴史は書けまい。アルカイヴの藏する史料はもとより官報の如き單純なものでないことはいへ、それが公邊に傾いて居ることは其本質上争へぬ事實であつて、決して史料の全部ではなくこれに依つて思想、信仰、文學、藝術等の進歩を窺ふことは頗る困難と謂はねばならぬ。私の前に引用した *Johnson* 氏は

In many cases the most important materials are not in official custody at all.

とすら極言して、學者が *British Museum* 及び個

人私用の多くの文書を以てこれを補足するの必要あること、殊に Elizabeth 王朝以後に於ては Historical Manuscripts Commission の報告や傳記、書翰集等が充分に役立つことを高調して居るが、英吉利の場合に於て其至言であることを私は信ずる。

British Museum は現在各部に分れて居るけれども、本來は其一つであるところの寫本部即ち Department of Manuscripts に初まるのである。中に於ては、政府の公文書保存所以外には僧院のアルカイヴや圖書館及び敎團僧 (Houses) の家が殆ど唯一の古文書の保存書であつたが、ヘンリ八世が羅馬法王と絶つて國內の僧院を廢し、其土地財産を沒收するに及んで、是等のアルカイヴや圖書館の大半は分散して仕舞つた。而して其藏書の幾分殘存することを得たのは Edward IV に依つて創立された Royal Library の外、主として數人の

蒐集家の努力に負ふものであつたが、十八世紀の統一的、國家的時代に入ると共に、是等の蒐集家の一人なる Sir Robert Cotton の孫から其蒐集方法に於ては學問上多大の非難を受けたけれども、有力なる多數の文書に富んだ Cotton Library の贈與を受けたのを始め、Harley Collection を購入し Royal Library の贈與 sir Hans Sloane's Collection の遺贈を受けてこれを一つの建物の中に保管することとしたのが British Museum の基礎となり、千七百五十三年には Museum Act of Parliament が發布され、千七百五十九年に其開館を見るに至つたのである。今同館の Department of Manuscripts で取扱はれて居るものが即ちそれに外ならぬ。

こゝでは古文書ばかりでなく、一切の手寫本の原本及び複寫本を取扱つて居る。開館當時一萬五千冊であつたものが、爾來年々増加して千九百二十年の統計に據ると、五萬一千冊を超え、而かも

古文書の冊をなごぬものや希臘、羅馬のパピリはこれに加つて居らぬといふことである。是等はアルカイヅと違つて、取材の範圍が公私に亙つて廣汎であり、従つて一般歴史の材料を萬遍なく提供すものであるから、これこそ我一部の學者に依つて憧憬さるゝ古文書館に相當すると思考する。

Cotton 等と同様の蒐集家であつた Sir Thomas Bodley's Collection はオックスフォードに Archbishop Parker's Collection はケムブリッジの Corpus Christ College に歸した。千五百五十年にヘンリ八世の後繼者たるエドワード六世のプロテスタント、コンミツシヨナルスは苟くも羅馬舊教の教義に傾いた寫本や圖書を無慘に破棄したものである。オックスフォード大學圖書館の如きも其掠奪の厄に遭つたが千五百九十二年にメルトン、カレッジ出身なる Sir Thomas Bodley に依つて再興された新しい圖書館は氏の名を館名に負ふことゝ

なつて、千六百二年から開館された。これが有名な Bodleian Library である。Bodley's Collection の全部がこゝに架藏さるゝに至つたことが此圖書館の誇であるべきこと言ふ迄もない。次にケムブリッジの Corpus Christ College の圖書館も Parker's Collection の遺贈が其基礎をなしたものであるが彼れはエリサアベス朝の初期にカンターバリーの大僧正であつた爲めに、僧院の解散後散佚に歸した多くの寫本を蒐集するに無類の便宜を得たのであるから、此カレッジの圖書館が英國内に於ける寫本の蒐集中最も富んで居るものゝ一つといはれて居るのは當然であらう。

次に Historical Manuscripts Commission は千八百五十九年に多數の有力なる人々が、時の英吉利政府の首相であつた Lord Palmerston に向つて價値ある古文書の埋滅を免るべき事業に着手する爲めに Royal Commission の選任を Victoria 女王

に勸めるやう獻議した結果、千八百六十九年に委員が任命されて、英吉利及び愛蘭で蒐集された寫本について、公私所有者の同意を得、精確にして且つ詳密なる調査に必要な手段を取つた上其結果を報告發表することに定められたのに始まる。

千八百七十年に第一回の報告書が世に出で、爾來千九百十四年迄四十四年間に約百五十六冊に達し實に英吉利國史の最大權威と看做されて居る。後には Commission の事業は Public Record Office に移されて、報告の性質こゝに其面目を改め、寫本の目録は一層精密に摘録され、其報告は學者に有用にして且つ趣味あるものなつた。

其他にも中央及び地方に於ける民間各種の團體で、公文書、半公文書、(都市や州のものカウンティの杯)及び私書文の出版をなしたものが頗る多く、これに依つて Public Record Office の公文書偏重の闕陥を補ふことが出来る。私は Public Record Office の

閱覽室の書棚の中で此種の多くの印刷物を見出して參考の爲めに其目録を取らうとすると、案内役に立たれた同所の Jenkinson 氏が、私の爲め咄嗟に鉛筆を走らせて (同所では萬年筆の使用を禁じて居る) 公文書、半公文書、及び私文書の三つの各印刷された書名、發行者、其年代を書いて呉られたのは私に取つて有益の記念であるけれども、こゝにはこれ以上の記述を省くこととする。

私は姑くアルカイヅを第一義の古文書館とし、マヌスクリプト、デパートメントの類を第二義の古文書館と見て、私の歐米の旅行中に視察した各地のそれを分類すれば、佛蘭西ではパリーの Archives Nationales 英吉利ではロンドンの中の Public Record Office 和蘭ではハーグの Rijks-Archief 獨逸ではベルリンの Staats archiv 伊太利ではネチアの Archivio Di Stato ローマのヴァチカノ法王廳の Archivio 等何れも第一義に屬すること可言

迄もない。亞米利加ではワシントンの Library of Congress は圖書館ではあるが、其議會に關する公文書の蒐集は性質上亦これと同一に看做すべきものであらう。次に British Museum の Department of Manuscripts や前記 Library of Congress の Manuscript Division (此中に第一義に屬するものもあるが) 各國の圖書館、殊に大學やカレッジの圖書館、中央及び地方の民間の諸團體、別して私の亞米利加でよく見た地方のヒストリカル、ソサイティーに於ける古文書の蒐集は第二義に屬する。私はこれから此兩者に通じて、私の體驗を主とした觀察を以下數項に分つて叙述して見やう。兩者は其本質に於て相違の點があるから互に混合を避くべき場合はこれを區別して説明すべきこと勿論である。

四 古文書の蒐集

先づ是等の古文書館が如何にして古文書を蒐集するやといへば、アルカイヴの場合は、執務上自然に推積したものを一定の期限後受入れるのが本體であるから、割合に單純であるが、其他の場合では寄贈、遺贈、寄託等を受ける外、購入、謄寫に依らなければならぬ。私が前に引いた英吉利の博物館や大學及びカレッジの圖書館等の場合は何れも寄贈や遺贈に係るものが其基礎をなして居る。亞米利加のそれでは寄託品の目立つて多いやうに見受けた。併しそれ以上に購入謄寫の必要なることは今更言ふ迄もないのであるから、是等の保存機關はそれら其豫算を有してこれを怠らないやうである。

私のロンドン滞在中は毎日の様に British Museum の Department of Manuscripts (通つて、マンズクリプツ・ディパートメント 旅館の女中から貴客は寫本を喰ひにロンドンに御出になつたのですかと揶揄された程であつた。其間部長

の Gilson 氏、次長の Herbert 氏や目録掛の Longley 氏から何れも親切な説明や助言を受けたことは衷心感謝に堪へないところである。其時の事であった。私は日本の古文書學研究の參考として、形式の變つた古文書の種類の重なるもの丈を集めて見たいと思ひ立つてそれらしい古書肆に當つて見たが、一通安くて二三磅位から十磅二十磅以上のものもあつて、何れも意外の高價であるには驚かされた。British Museum の如きは比較的に豫算が潤澤であつて、世界大戰の場合の外は決して削減されなかつたさうであるが、それでも寫本類の價格の騰貴率に對して當局者は經費の不足を感ずることである。Gilson 氏に言はせると、それには種々の原因があるが、殊に顯著なのは二つで、第一が海を隔てた富裕な英語國民が其國民の史料を手に入れることを熱望し出したことである。それは言ふ迄もなく亞米利加人の事で、ギ氏は彼等の望は吾

人と同様であると言つては居られるが、而かも米國民の場合には其歴史の短いことが、或特殊な部分の説明に當つて、古い國の國民がするよりも一層多くを費したくなるといふことを其眞因と看做されて居る。現に亞米利加へ行つて見ると、英吉利の古文書寫本類を藏して居る圖書館、博物館等は少くない。第二は古人の自筆蒐集に熱中する風である。ギ氏は眞に歴史的趣味から自筆の手紙杯を尊重するのはよい事で、古文書の堙滅を防ぎ、且つ一般に向つて斯る趣味を刺戟することにもなるのである。博物館に於ても此目的の爲めに成るべく多くの自筆物を陳列するの方針を執り來つたものであるが、それは確に成功したと信すべき理由がある。と其明るい方面を辯護して居られるが、併し又纏つた文書の中から、斯様な自筆物丈を引抜くこと程古文書學の原理—respect de fonds—に對する破壊者はないといつてこれを非難し、且つ

其賣價が眞の歴史的趣味よりは寧ろ當人の自筆物の稀有であるといふことが標準になつて居るのでそれを是非共手に入れやうとする熱情と競争するにはこの豫算位では（恐らく何所の國でも純然たる學術的の目的の爲めでは）到底不可能事であると痛歎して居られた。此點は我國の現代に於ても略同一の事情が存在するのであつて、大學に於て國史研究の標本蒐集に多年關係して居る私共の同感に堪へないところである。

私は初め British Museum から程近い或老主人の居る古書肆に註文して古文書（主として佛蘭西のであつた）を取揃へさせたが、其言値が餘りに高いので一日午餐を共にした歸りに Handley 氏の同行を求めた。氏は一々點檢した後、喋々とそれらの效能を説き立てる主人に向つて、折角乍ら私の希望に添はぬからと斷つて外に出でるなり、彼れは Jew で、夫程でもないものを高く吹きかけるのだから見合せられた方がよからうといはれ、歸つてから Gilson 氏や Herbert 氏に私の希望を話されたので、私は Gilson 氏から、平素博物館

に出入する信用ある古文書専門の商人に紹介され相當の價格を以て各種の古文書（中には千三百六十年のチャーターを始めマノルの免許狀や圖面のパーチメントを含んで居る）を取揃へることが出来て豫期の目的を達し得たのは望外の仕合であつた。原本を購入する外に其副本を作ることも亦古文書館の一つの事業である。殊に外國の古文書館にある自國の史料の寫を取ることもや目錄を取ることには歐米の何れでも試みられて居ることである。私がワシントンで訪問した Carnegie Institution の Department of Historical Research の同々も、外國のアルカイヅに含まれた豊富な亞米利加國史の史料を調査し其目錄を作成することが事業の大部分を占めて居つて、同國とは最も密接の關係にある英吉利を始めとして加奈陀、西班牙、玖瑪、墨西哥、伊太利、獨逸、瑞西、埃太利及び露西亞のアルカイヅに存する史料の目錄の出版されたものが千八百二十一年迄に十四冊に達して居た。併しそれらの事は後項文書館の利用の條に譲つて、こゝには略することゝしたい。